



## 夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第39号(R4. 12. 5)

### 生徒会役員の決意と抱負 Part2

前号に引き続き、今回も生徒会役員の意気込みを紹介します。書記担当の4名です。

#### 【 8年書記 安藤 和花 さん 】

この度、生徒会書記になりました安藤和花です。私はこの一年間、河東中学校の掲示物やポスターをもっと増やしていきたいと思います。掲示物やポスターを見た人が、少しでも笑顔になれたり幸せな気持ちになれたりできるようなものを作っていきます。そして、河東中学校に笑顔の「花」を咲かせたいと思います。私は生徒会書記としての責任をもち、皆さんの学校生活を明るく、笑顔に送れるよりよいものにしていきます。一年間よろしくお願いします。



#### 【 8年書記 甲斐 大翔 さん 】

僕は生徒会役員になり、これからも責任感、緊張感を持ち、何事も「前向き」に考え活動に取り組んでいきます。活動に関しては、演説や公約に示したように「書道の経験」を存分に生かし、誰もが楽しくメリハリのある学校にしていきたいと思います。そのために、学校全体の目標を漢字一字で表したり世間で話題になっている情報を掲載し、友達と話す機会を増やしたりしてほしいと思います。全校生徒に選んでもらったからには、皆さんの期待を超える活躍を見せます。どうぞよろしくお願いします。



#### 【 7年書記 石橋 彩香 さん 】

7年書記になりました石橋彩香です。私は、生徒会書記としてこの学校を笑顔あふれる学校にしてみせます。そのために演説でも話した通り2つのことをしようと思っています。

1つ目は、「笑顔」のあいさつ運動を実施します。

2つ目は、ワクワクするような楽しみ、具体的には「SKY新聞」を工夫します。

この2つのことを通して、この学校をもっと笑顔にしてみせます。生徒会書記として一生懸命頑張ります。よろしくお願いします。



#### 【 7年書記 河野 稜生 さん 】

みなさんこんにちは、今回生徒会書記になりました河野稜生です。私がこの生徒会でやりたいことは、演説で言ったこと以外にもたくさんあります。それを実現させるには生徒会役員はもちろんのこと、みなさんの協力も大切です。そして僕が今生徒会役員になれているのは皆さんのおかげだということをしっかり理解して、みなさんにとって少しでもいい学校にしていけるように僕たち生徒会役員は努力していくので応援よろしくお願いします。



## 授業研修の風景

## 齋藤先生(国語)

漢詩「春暁」を使った齋藤先生の漢文の公開授業がありました。



8年5組で公開された齋藤先生の国語の授業。漢文の名作「春暁」を読み解くために、レ点や一二点を使える学習をしました。タブレットでロイロノートを使って練習することで仕組みを理解できるようになりました。どんな鳥か?どんな花か?天気はどうだったのか?「春暁」に描かれた世界を今回の学習を活用してどう読み解いていくか楽しみです。

## “自分だけの時計”を持つことの大切さ ～ 劇団四季創設者・浅利慶太さんの言葉 ～

「キャッツ」「ライオンキング」「オペラ座の怪人」などのミュージカルは、長年にわたって人々を魅了してきました。これらのミュージカルを上演しているのが劇団四季です。年間 3500 公演、700 人を超える俳優、300 人以上のスタッフで運営されています。この劇団を創設しプロデュースしてきたのが浅利慶太さんです。彼がどうやって俳優を育ててきたのかというインタビュー記事を紹介します。



『僕はオーディションの時に「10年間辛抱できますか」と質問します。誰もが「できます」と答える。でも、実際は1年以内に多くの子がやめていってしまいます。俳優とは人それぞれで伸びるテンポが違うので、**自分だけの時計を持たないといけないんです**。ところが「私はなぜあの人のようになれないのだろう」とついつい**他人の時計をのぞいて、自分を見失ってしまうんですね。**』

勉強やスポーツ・芸術などの習得には、自分だけの時計があります。河東中生一人一人に自分に合った自分だけの時計があります。速く進む時計もあれば、ゆっくり進む時計もあります。少しの時間で身に付くこともあれば、習得するためにたくさんの時間を要することもあります。成長には自分に合ったペースがあります。他人の時計を気にする必要はありません。比較すると自分を見失うと浅利さんは言います。

浅利さんは、さらに話を進めます。

『不器用でも10年から15年やっていると自然にテクニックが身に付いてうまくなっていくものです。二枚目でなくて声もいまひとつで、身体能力も高くなくて、あるのは根性だけという子どもでも、10年地道にやるとけっこういいバイプレーヤー(わき役、助演者)になります。しかも器用でない分苦勞し、人格的に深みが出てくる。ですから、訓練に耐える力も、じっと待つことができる力も、芝居を愛し続ける資質もすべて才能なんです。』

先日も新入団員たちを前に話をしたのですが、「君たちはいままでは公平にあつかわれる社会で育ってきた。だが、これからは違う。劇団四季の敷居をまたいだ途端に不公平な社会に入ったんだ。競争社会の中でこれからはあつかわれるんだ」と。その中で生きていくために必要なのは、「好きこそものの上手なれ」という言葉もあるくらいで、やはり情熱でしょうね。情熱を持った人間が何かを創り出していく。不可能と思われることでも、それに執着する強い情熱ですね。』

俳優の世界や芸能界は、私たちが想像している以上に競争が激しく厳しい世界でしょう。その中で何十年も人間模様を観察してきた浅利さんの言葉は大変重みがあります。ここまでなくとも、みなさんが将来生きていく社会や職場では、不条理や不公平があるかもしれません。そんな中でも、目の前のことに情熱を持ち続け生き抜いてほしいと願っています。